

日本学術会議 基礎医学委員会 IUPHAR 分科会(第 26 期・第2回) 議事録

開催日時： 2025 年 1 月 7 日（火） 16:00～17:00

開催場所： オンライン会議

出席者： 古屋敷智之（委員長）、小泉修一（副委員長）、村松里衣子（幹事）、金井好克、赤羽悟美、安西尚彦、池谷裕二、今井由美子、新田淳美、西谷友重、萩原正敏、日比野浩、三澤日出巳、南雅文

欠席者： 黒川洵子（幹事）、上田泰己

（以上敬称略）

議事：

1. 前回分科会の議事録（確認）

委員長の選出、副委員長や幹事の選出等、前回議事録に記載された内容の確認に加え、IUPHAR 分科会の設立目的の確認を行った。

2. IUPHAR 分科会の委員の追加（報告）

各委員の自己紹介を行い、これまでの IUPHAR との関わり等を紹介した。

3. 日本学術会議の現状（報告）

日本学術会議の現状やこれまでの経緯、学術会議の 5 要件の重要性や主な懸念点を含め、日本学術会議第 193 回総会資料等の公開情報をもとに説明があった。

4. IUPHAR に係る調査票および参考資料等（報告）

IUPHAR の調査票に記載されている特質すべき情報として、最近の動向について説明があった。具体的には、Committee on Receptor Nomenclature and Drug Classification（受容体と薬物の分類・命名に関する委員会、NC-IUPHAR）の活動、免疫学を基盤とした新たな治療法の台頭を受けて、免疫薬理学部門を強化、分科会として Natural Products Section を設置、Pharmacology Education Project（薬理学教育プロジェクト）等に関する情報であった。WCP2018 の京都開催、IUPHAR 理事の選出等の記載についても言及があった。

5. IUPHAR 等の国際活動に係る最近の動向・活動（報告）

IUPHAR 理事会において、各セクションや分科会からの進捗報告が行われ、NC-IUPHAR の活動、WCP2026 の企画、教育プログラム、各国薬理学会との連携が紹介された。

6. IUPHAR 等の国際活動に係る今後の方策（審議）

国際活動に関して意見交換を行った。世界が日本に何を期待しているかを理解しつつ、日本

が目指す方向性も見据えた Win-win の関係を築くこと、若手に対して IUPHAR や APFP の活動や国際活動の意義・楽しさを伝えることの重要性などを確認した。

7. IUPHAR 分科会の今後の活動（審議）

国際活動のための人材育成には時間がかかることから、国内の薬理学関連学会とも連携し、国際活動に対する考え方を醸成する必要があることを確認した。

8. 次回分科会の開催

未定（来年を予定）